

「市電の運賃値上げ」 1億6,300万円の市民負担増 基準外一般会計繰入れの減額はやめて、値上げは中止を！

「経営状況悪化」のツケを市民へ押し付けるべきでない

2025年6月からの市電運賃値上げが提案されています。その理由は、①乗車人員がコロナか前まで回復していない、②非正規職員の処遇改善や物価高騰等による収支悪化です。

一般会計繰り入れを減らして、その分を市民負担増

熊本市は新型コロナや物価高騰への支援として、2020年度から年間1億4,200万円の「基準外一般会計繰入れ」を行ってきました。

ところが、来年度からの運営民営化（上下分離）を前に、「基準外一般会計繰入れ」を今年度まで打ち切ろうとしています。民営化に向けて、交通事業

しかし、いずれの理由も本来交通事業者の経営努力で改善されるべきものです。

経営状況の悪化を理由に、利用者である市民への負担を求めるべきではありません。

（市電）への繰出しを減らして、その分市民へ負担増です。

市は「交通事業の運営を民営化しても、100%市出資の会社が運営するので、事業は何ら変わらない」と説明してきました。しかし、一番肝心の財政支援を縮小し、市民へ運賃値上げ押し付けでは、公共交通の利便性向上・利用促進に逆行します。

市役所建替え700億円より、公共交通への支援拡充を

熊本市は、ゼネコンの儲けのための大型ハコモノ「市役所建替え」に、700億円超の巨額投資を行う方針です。

一方で、公共交通の利便性向上・利用促進に逆行する市電運賃の値上げを市民へ押し付けようとしています。

熊本市は、「誰もが安心して移動できる持続可能な公共交通」を目指す公共交通の将来像としています。

今必要なことは、公共交通への市の支援拡充です。基準外一般会計繰入れ減額はやめて、運賃値上げは中止すべきです。

【控室から】
「ルドルフとイッパイアッテナ」
上野 みえこ

齊藤洋の児童文学「ルドルフとイッパイアッテナ」に出会ったのは30年以上も前のことです。タイトルからは話の内容が見えない作品ですが、読み始めると、本当に面白くて猫たちが織りなす物語の世界に引き込まれていきました。

原作がすばらしいこの作品は、児童演劇作品としても上演され、この11月にはオペラシアターこんにゃく座の子どものためのオペラ作品として子ども劇場例会で鑑賞の機会がありました。ひとつの文学作品が、さまざまな形で、感動を与えてくれることは素晴らしいと思います。

子どもたちと楽しんできた子ども劇場は、孫たちと楽しむ場になりました。一緒に舞台を鑑賞しながら、目を輝かせる子どもたちを見て、生の舞台に触れる大切さを痛感します。すべての子どもたちにそんな場が提供される必要があるためには文化への公的支援の拡充が求められると思います。

*先週号の「マイナ保険証」の問題でのお詫びと訂正

後期高齢者医療保険では「すべての被保険者に資格確認書が来ます」と記載していましたが、国民健康保険と同様「マイナ保険証を持たない人に資格確認書が送られてきます」、以上訂正してお詫びいたします。

日本共産党
熊本市議会だより

NO. 1389
2024年11月17日号
電話 328-2656
FAX 359-5047

メール: kumamsu@gamma.ocn.ne.jp
HP: 共産党 熊本市議団

発行: 日本共産党熊本市議

検索



上野みえこ
(中央区)



いせり栄次
(東区)

「長寿命化」という名の団地廃止はやめて！ 「今の団地に住み続けたい」 居住者の願いに応じてほしい

・・・ 11月7日、中央区の「菅原団地」存続を求めて、入居者が市へ要望 ・・・

「長寿命化計画」で、24 団地・492 戸の廃止を予定

熊本市は、市内の 24 団地・492 戸を「市営団地長寿命化計画」で 2031 年までに用途廃止の予定です。(右表のとおり)

管理戸数の少ない団地から多い団地までさまざまですが、

高齡化がすすむ入居者の転居は難しい

熊本市中央区の菅原団地は、2027～2031 年に耐用年限を迎えることから、市の今後の対応に住民が不安を持っています。

一方、入居者は高齡化がすすみ、「転居することが難しい」、

住み続けられるよう、団地の存続を！

小学校に隣接し、病院や銀行も近く、買い物にも便利で、高齡者から若い世代まで住みやすい環境にある菅原団地の用途廃止には理由がありません。

「ここに住み続けたい」の声

2031 年に 4 棟すべてが耐用年限を迎える 90 戸の菅原団地廃止は入居者への影響も大きく、不安の声があります。

そこで住民は、存続を求めて市へ要望書を提出しました。

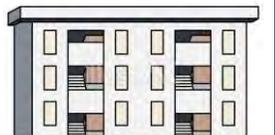
「移転のための保証人がいない」、「家賃が今より上がっては、生活が厳しい」、「病院が遠くなる」、「積み重ねてきた人間関係がなくなる」など、様々な懸念事項があります。

に応え、長年培ってきた人間関係を維持し、助け合っ生活できる環境を守ることが必要です。そのためにも、市は団地を存続し、住み続けるための支援をこそすべきです。

「熊本市市営団地長寿命化計画」における用途廃止団地
(2031 年度までの計画期間内における)

(団地名)	(管理戸数)	(耐用年限 経過年)	(団地名)	(管理戸数)	(耐用年限 経過年)
田底	3	1983	国町	17	2022～23
宮内	1	1985	藤坂	20	2022
塚原 II	1	1986	塚原	16	2025
西宮原 A	8	2011	舞尾	8	2025
西宮原 B	4	2014	萱木公営	6	2025
西宮原 C	4	2015	本町	2	2025
下宮地	1	2015	田原	11	2026～31
西宮原 D	4	2016	菅原	90	2027～31
西宮原 E	6	2016	花園	10	2028
荻迫	6	2018	黒髪	36	2030
鏡田	50	2019～24	新町	24	2038
迫の下	14		大窪	150	2051
			合計	492	

2031 年度までの計画期間内に、24 団地・492 戸の用途廃止が予定されています。大窪団地は建設中の高平団地と統廃合の予定です。



建物の耐用年限は、耐火構造：70 年、準耐火構造：45 年
木造：30 年